

「豊」かで「和」やかな 豊和

豊和 おひさま だより

旧「豊和村づくり通信」



令和6年元日の松峯神社（撮影：菅谷きぬ子様）



最近、豊和コミュニティセンターの講演会がアツい！

『オーガニック給食って？ それ何なの？』

国光美佳さん 講演会

医師が実践する病気にならない食と暮らし

本間真二郎先生 講演会

豊和地区が「脱炭素先行地域」に選定

あなたも「村づくり基金」を使ってみませんか！

2023～2024 冬休み「こども教室」開催！

ソーラーシェアリングの「分かち合い」で豊和を元気に！ **豊和村づくり協議会**

<https://www.toyowa-village.org/>

最近、豊和コミュニティセンターの講演会がアツい!

食事や健康について、
全国で講演されている方々を
豊和にお招きして開催しました。

2023
12月
10日

『オーガニック給食って? それ何なの?』

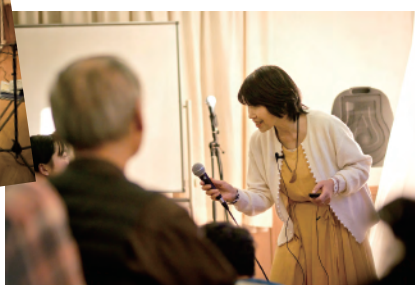
国光美佳さん 講演会

昨年12月10日、豊和コミュニティセンターで『オーガニック給食って? それ何なの?』が開催され、会場が参加者で溢れた。”子どもの心と健康を守る会”の国光美佳さん講演と映画『希望の給食』上映。

国光氏のお話で、子どもの食を少し変えると数週間で良い変化が生まれると明かされた。オーガニック給食に取り組む自治体は、不登校が減り、学力向上し、農家収入が増え、移住者が増え、地域活性し、環境が改善。

全国の母親から起こってきた給食運動は、全国の自治体や国会議員にも波及し、農水省も力を入れ始めた。匝瑳市は動きが鈍い、全国に残されるまい。

(「村づくり基金」の助成を受けて「匝瑳オーガニックコミュニティ」が主催して実施)



2024
1月
21日

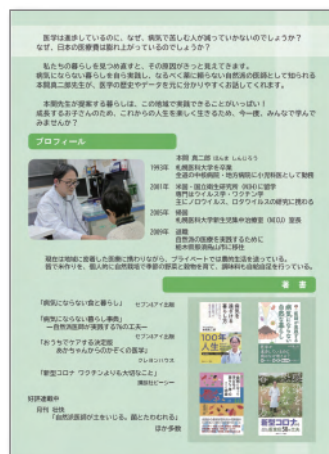
医師が実践する
病気になる食と暮らし

本間真二郎先生 講演会

なるべく薬に頼らない自然派の医師として知られる本間真二郎先生を那須烏山からお招きし、豊和コミュニティセンターにて、病気になる食と暮らしについてのお話会。

産業革命後の環境汚染により増えた現代病を

紐解き、圧倒的なデータ分析と共に、私たちの健康を保っている常在菌や腸内細菌を殺さないために何をすべきか、マクロとミクロの視点で伝えてくれました。



自らも自然農法の田んぼや畑で自給的に暮らし、採取・培養した麹菌で調味料も自作し、「医の前に食があり、食の前に農があり、農の前に微生物がある」を実践されています。(「村づくり基金」の助成を受けて内山隼人が主催して実施)

豊和地区が「脱炭素先行地域」に選定

匠瑛市が環境省の補助事業に申請し、採択されました。この事業は、国が100箇所を「脱炭素先行地域」に指定して、そこに集中的に資金と人材を投入することで「脱炭素化（CO2 実質ゼロ）」を実現するものです。匠瑛市内では、豊和・春海

地区、八日市場ハ・ロ、飯倉地区が先行エリアに指定されています。エリア内で各家庭が太陽光発電設備や蓄電池を設置する場合、設置費用なしで設置が出来、電気代も安くなります。また、断熱改修をする場合は、3/4の補助がでます。

匠瑛市：そうさ！匠瑛モデルで脱炭素！
～ソーラーシェアリングを中心とした脱炭素化推進プロジェクト～

【商業用連携モデル】
【農業×脱炭素】
【地域連携モデル】

脱炭素先行地域の対象：豊和・春海地区、飯倉地区、中央地区
主なエネルギー需要家：戸建・集合住宅2,432戸、民間施設44施設、公共施設11施設
共同提案者：匠瑛みらい株式会社、市民エネルギー株式会社、株式会社しおのい電力、株式会社富士ゼロックス、学校法人千葉学園、千葉商科大学、国立大学法人福島大学、匠瑛市緑木組合、株式会社ETA Network Japan、株式会社エコグリーン、ソーラー油脂株式会社、千葉県大根土地区改良区、クレアトラ株式会社、株式会社EG Forest、株式会社カインズ、八日市場金庫、三井UFJ信託銀行株式会社、特定非営利活動法人環境エネルギー政策研究所、匠瑛市商工会

取組の全体像

市の主要産業である稲作農家が集積し、従来から畑作型ソーラーシェアリング(SS)を導入されている豊和・春海地区における水田営農型SSの導入等により、脱炭素化を実現。福祉・医療施設等を中核に「生涯活躍のまち」づくりを進める飯倉地区、市役所等の公共施設や商業施設が集積する中央地区と連携した「豊和・防災連携」の取組により、高齢者の雇用確保や市街地でのレジリエンス強化、更に営農型SSの研究・人材育成を行う「ソーラーシェアリング・アカデミー」事業の実施により、農業振興による関係・交流人口増加と移住・定住の促進を目指す。

1. 民生部門電力の脱炭素化に関する主な取組

① 独自の細型パネルを採用し、水田2か所にオフサイト営農型太陽光発電(2,220kW)・蓄電池を導入することにより、日照量減少の影響を軽減
② 水田営農型SSにて発電した電力は地域新電力「しおのい電力」を経由して先行地域内の高圧需要家に供給
③ 住宅・民間施設等にオンサイト太陽光発電(6,128kW)・蓄電池を導入

2. 民生部門電力以外の脱炭素化に関する主な取組

① 米ぬかから製造される米油由来のバイオ燃料プラントを豊和・春海地区に導入し、製造された燃料を地域の農業機械に利用することにより軽油利用を軽減、生産した米をゼロカーボン米としてブランド化
② 市内の植木業者から排出される剪定枝を燃料として活用するバイオマスボイラーを導入し、避難所となる公共施設に熱供給を実施
③ 植木剪定枝や放置竹林の竹等からバイオ炭を製造し、市内の田畑に散布し土壌改良剤として活用しながら、CO2の農地貯留を実施
④ 土地改良区による水田の給水時期調整により、中干期間を延長しメタンガス発生を抑制

3. 取組により期待される主な効果

① 営農型SSによる売電収入、バイオ炭販売やそのカーボנקレジット収益等、新たな収入源を確保する新しい農業経営モデルの構築により、高収益化、新規就農者確保、関係人口増加を推進
② 営農型太陽光発電取組支援ガイドブック(農林水産省)の事例として取り上げられている市民エネルギーが中心となって運営する「ソーラーシェアリング・アカデミー」を通じ、水田営農型SSのノウハウ等を市内外に共有。また、滋賀県米原市、新潟県関川村、熊本県あさぎり町との地域間連携により、細型パネル共同調達によるコスト低減等を図るとともに、営農型SSの普及拡大や人材育成、他地域への横展開を推進

4. 主な取組のスケジュール

2023年度	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度
		水田営農型SSの太陽光発電・蓄電池導入			
		民間・公共施設の太陽光発電・蓄電池導入			
		住宅の太陽光発電・蓄電池導入			
		米ぬか由来バイオ燃料の活用			
		植木剪定枝による熱供給			
		バイオ炭による土壌改良・CO2の農地貯留			

この取り組みは、来年度から5年間で先行エリアの「脱炭素化」を実現し、それを匠瑛市全体に広げることで「ゼロカーボン匠瑛」を実現し、合わせて地域循環経済と地域課題の解決を進め持続可能な地域をめざすものです。豊和村づくり協議会も匠瑛市と一緒に取り組みを進めて行きます。

あなたも「村づくり基金」を使ってみませんか！

お問い合わせ先 E-mail: contact@toyowa-village.org

★「村づくり基金」は、住みやすい豊和をつくることにつながる案件であれば、誰でも使えます。「こんなことをやってみたい」「こんなことがあればいい」と思っている方は、ぜひ相談してください。

基金の使いみちは次の4つの目的に沿ったものであれば、協議会で相談して決めます。

これまで、「こども教室」「いきいき健康サロン」「地域と都会との交流イベントへの支援」「豊和コミュニティセンターでの上映会やセミナー」などに使われています。

- ① 飯塚開畑地区をはじめとする豊和地区の耕作放棄地の解消や農地と環境の保全
- ② 地域の振興や活性化、環境保全、子供たちの育成等、地域のために活動している団体等への支援
- ③ 子どもたちの育成に資する活動への支援
- ④ 新規営農や農村と都会との交流への支援

★「村づくり基金」には、次のような助成金がありますので、活用ください。要件など詳しくは事務局にお問合せください。

- ① 移住者・Uターン者への一時金の支給
- ② 移住者・Uターン者のリホーム資金への助成
- ③ 豊和地区内の耕作放棄地の復元への助成金
- ④ 豊和小学校への新入生（1年生）への入学支援金
- ⑤ 豊和コミュニティセンターを使つての活動・取り組みへの助成金

★「地域づくり事業」の立上げに対する支援

地域で必要となるサービスや事業なのに採算性等から難しいサービスや事業が少なくありません。そうした事業の起ち上げを支援することで、住みやすい地域づくりと移住者の増加や定着につなげていくことをめざして、必要な資金の一部を助成・支援します。

2023～2024 冬休み

「こども教室」開催！

冬休み「こども教室」が令和5年12月25日～令和6年1月5日までの間で7日間行われ、16人のこども達が延べ40人参加しました。



教室では、冬休みの宿題をみんなでやるだけでなく、正月用のリースをつくったり、凧をつくって寒さに負けずにみんなで凧揚げを競い合うなどしていました。



常連のスタッフさんだけでなく、高校生や年末年始で家に帰ってきた大学生が手伝ってくれるなど、これまでにない拡がりがありました。
こうした流れが定着すると良いですね。